



TWEET

子育て・孤育て・己育て ぱーと2

大阪で働いていた私が、仕事を辞め和歌山にやってきたのは、現在1歳10ヶ月の長男が生まれる年半ほど前、2012年の春のことです。当時つきあっていた夫が仕事のために住んでいる、というだけで、縁もゆかりもない土地。最初は新しく就きたい職業もあり、職探しをして、内定をもらったり、面接で良いところまで行ったりもしましたが、夫と話し合っ、妊娠希望を優先することになり、結婚式と新婚旅行が終わるまでは軽めのパート探しも保留にしよう、と決めました。

すでに30歳、ゆっくりできる年齢でもないと感じていましたし、子宮に軽いトラブルもあり、妊娠できなくなる可能性もあるので、はやいほうがいい、とお医者さんに言われていたのです。結婚式の準備や、週に一度、無料の求人誌を取りに行ったり、たまにハローワークや図書館、料理教室に行ったり……当時車の運転もできなかったし、友達も知り合いもいない和歌山で、所属する場所もなく、今になってみると、いったいどうやって日々暮らしていたのかと思います。妊娠については、それなりに危機感を持って、体質を変えるために食生活や整体法などに取り組んでいました。新婚旅行からほどなく、ちびがお腹にやってきてくれました。

ちびが生まれ、和歌山で暮らし始めて実感したのは、子育て中のおかあさんと子どもはこんなに孤独なのか、ということでした。我が家の場合、夫婦ともに実家も遠く、最初は知り合いもいない状態からのスタート。もちろんちびはかわいいのですが、これで夫の手助けもなく、せめて実家の母に電話で助けをもとめたり、月に1回でも手伝いに来てもらってなければ、本当におかしくなって虐待に走ってもおかしくない、と思ったことも1度や2度ではありません。夫が帰ってきた時に、ちびも私も号泣している、ということもよくありました。

「このままどこにも行かなかたらおかしくなる!」と、ちびが4ヶ月になるころ、カルチャー教室のママヨガにちびと一緒に通うようになり、同時に、10年近いペーパードライバーを卒業するべく、運転を練習しはじめました。まだ慣れない頃、小児科の駐車場で、タイヤ止めのむこうがわにうまいこと後輪が入り込んでしまって、自分では出られなくなり、スタッフさんに助けをもとめたのも、今となってはよい笑い話です。それから少しずつ、つどいの広場などにもでかけるようになりました。

その後も9ヶ月のちびをかかえて農園に農作業をさせてもらいに通ったり、それが高じて家庭菜園を借りたり、興味のあるワークショップにでかけたりと、「お子さん小さいのに活動的だね」と言われることもありましたが、それだけエネルギーというか、フラストレーションがたまっていたのだと思います。

ちびの成長をいとおしく思い、協力的な夫に感謝する一方で、いつ寝て、いつくずるのかわからないちびと、ふたりきり。見通しが立たず、ちびに振り回される生活。食べ物でストレス発散する傾向は以前からありましたが、ひどいときは、ジャンクフードをたくさん食べ、それが母乳に出てしまう、また食べ物に逃げてしまったと自己嫌悪して、トイレで嘔吐することもありました。

ちびが1歳2ヶ月になるころ、私が一番途方に暮れてしまう、夕暮れ時。晩ごはんの準備もできていない、これからちびをお風呂に入れて、ごはんも食べさせなければいけないのに、自分の中にどうしてもそんな力が残ってなくて、実家の母に電話をかけました「どうしても困ったら、助けてくれる?」「もちろん、助けるよ」。距離があり、母にも仕事があるから簡単には頼れない。その言葉だけが言いたくて、欲しくて、「ありがとう」と電話を切ったあと、母からまた電話があり「明日、行こうか?」。

翌日、仕事の合間に、母は神戸から日帰りに来てくれました。買ってきてくれたお弁当を食べ、和歌山イオンモールにちびと3人でお出かけ。シェラードを食べてわいわいしたり、せんなん里海公園で、ちびに靴を履かせ、お外で伝い歩きと、滑り台デビュー。なんてないことでも、「ああ、そうかあ、ちびと一緒に笑うこと、ちびと遊ぶ余裕があることが、こんなに嬉しいんだなあ」と思い、「かーちゃんはちびが嫌いでイライラしてるわけじゃない。なまけたくて無気力なわけじゃない。ちびが好きで、とーちゃんも好きで、ちゃんとしなくちゃ、って一生懸命なだけなんだ」と。

その頃から、「子育てと家事は私が第一に責任を持ってしなければいけない私の仕事」という思い込みがすこしゆるんできたのかなと思います。

おひるねママ

このコーナーはぐるんぱママの「つぶやき」を随時掲載します。お楽しみに! 投稿も大歓迎です!